

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

縄張りをももる稼業も染じやない突降るなか
ネコ傷を舐む 寺崎 悦子
初めてのおこの孫を抱く時はなるかなる祖に
おもひを馳する 鈴木久美子
この風向き明日は雨かも畑を打つ 齋藤 典子
春を築しむ 齋藤 典子
啓塾のぬくとき晴れ聞うぐひすは本音出しえ
ず春を告げをり 八嶋 正子
早春の温き午前を風邪癒えて幾日ぶりか湯ぶ
夕暮るる無人の駅の広場には雨にうたれて自
転車倒れをり 平岡 久子
姉たちと語り笑う声にはと目覚む彼
岸の朝 佐藤 啓子
ケアハウスに昼湯浴みつつふと見付く茂みに
あそぶ番いの雉子ぞ 山田 濱
窓あけて眺むる庭のクロッカス春を先取る色
の鮮やぐ 佐藤キワ子
あたたかさ庭を踏めば水仙が春めく顔に迎
え呉れたり 高子うこん
評 一首目、猫の独白のごとき口調が効果的
で、助詞を省いた結句も締まる。
二首目、つながりへの感慨にひたる作者、
誰しもの実感を詠んでおられる。
三首目、手に直に伝わる春だ。上の句も含
め気分をうまくまとめられた。「かも」は「か
もしれぬ」の用法。

俳壇

遠藤 秋尾 選

ランドセル春の日のせて登校す 岩松 隆志
畑打や小昼も運ぶ猫車 岩澤 伍峯
梅三分雨の藁家が昼灯す 斎藤 典子
春雷に心のすき間突かれけり 跡部祐三郎

年度末の最終土日となった3月27日と28日には、白石市286平方キロメートルがきれいにまりました。27日の土曜日は、白石市観光協会主催の「沢端川川干し清掃作業」があり、シルパー人材センターや市内の企業に勤務している方など、総勢約370名により、堂場前からヨ1クベニマルまでの沢端川・館堀川の川の中や、さらにはご廟所と、8班に分かれての清掃作業が行われました。私も長靴・軍手、そして手にはこみばさみといういで立ちで、今年も参加しました。

風間市長の風のそよぎ

「掃除」

初めて川干し清掃を実施したところと比べると、参加人数が増え、逆にこみは減るという状況をうれしく感じ、早朝のすてきな気分を味わえるひとときでした。しかし、川底には必ずいくつかの缶やビニール袋があることに驚かされます。今年はいきいきプラザ前の川面に、コイを多く回遊させるべく、デッキの周辺に川底の土を詰めた土のうを配置し、よどみを作りしました。ところが、昨年ライオンズクラブの皆さんが放流したコイの数が激減。どこに行ってしまったのでしょうか？ 会員の方々に一生懸命餌付けを

ます。ここでも、田んぼのあぜやのり面には、ポイ捨てされたと思われるごみが見受けられ、残念でなりません。心ない一部の人たちのモラルの問題にぶつかり、頭を痛めてしまっています。それでも年々、道路や目につく所のごみがなくなり、日ごろから地区の方々がきれいにしている成果が現れており、その努力をうれしく思います。いよいよ春の行楽シーズンです。市民一丸となって取り組ん

だ清掃により、白石を訪れていただいた観光客もきれいになった町並みを楽しみ、花や木々や川面、そしてコイの回遊に癒やされることでしょうか。そして白石を好きになり、また来たくなる城下町として良き印象を持ってもらえるものと思います。これもおもてなしの心のひとつです。みんなできれいな城下町を維持していきましょう。連休には、全日本こけしコンクールや白石市民春まつりがあります。観光客を楽しませることも大切ですが、まずは私たち市民が大いに楽しむことこそ大切です。お互い参加して盛り上がりましょう。実は今、春まつりのパレードでどんな格好をするか思案中です。



▲川干し清掃作業には多くの方が参集しました

国際コーナー

International Corner

「自由を与えるシドニーの学生ライフ」

ちょうど桜が咲く前のころ、日本のもうひとつの「花」が咲きます。そう、学生が大人になる階段を一步踏み出し、卒業をします。幼い小学生から社会人になりかける大学生、みんなにとって新たなスタートです。

オーストラリアでは中学校や高校に行くのは権利だと思っていましたが、日本では希望の中学校や高校に進めない生徒も多いようですね。オーストラリア人の僕にとって、これは少し厳しく感じます。なぜなら、オーストラリアは比較的生徒に優しい制度だからです。

基準の違いから説明します（オーストラリアは州によってシステムが若干異なるので、あくまでもシドニーの話です）。シドニーでは中学校と高校が一緒になっているので、1年生から3年生ではなく、7年生から12年生を合わせて「ハイスクール」と呼びます。公立の場合は普通、学校の近辺に住んでいれば進学するためのテストを受ける必要がなく、市民の権利として通うことができます。隣町に住んでいると、条件を出されることもあるようです（僕の友達も、生徒が少ない科目（ヘブライ語）を選択すれば入学できると言われました）。また、12歳

から18歳の生徒が同じ校庭で遊び、同じ施設を使います。

シドニーの教育システムは、中学生のころからプレッシャーを与えたり、競争させたりするよりも、自由を与えます。選択科目が多いですし、アジアやヨーロッパの言葉も若いころからたくさん試すこともできます。また、部活がないので毎日3時半ころには家に帰ります。その後は夜ご飯まで少し勉強したり、自由に遊んだり、早めに寝たりと、とても楽な生活です。実際、11・12年生（日本の高校2・3年生）の時だけ勉強に集中すれば、希望の大学に進学できますよ。

もうひとつの違いは卒業の期間です。12月の上旬に学年が終わり、南半球なので夏休みに入ります。10年生（高校1年生）で義務教育が終わるので、その時にちょっとした卒業式が行われます。本格的な卒業式は12年生で9月に行い、10月から大学受験が始まります。合格発表は学校の看板に掲示されないで、12月中旬にインターネットで確認したり、郵送で結果が届いたりします。

日本とシドニーの教育制度の違いは、まだまだたくさんあります。今回はその一部だけ。面白かったかな…？

まちの話題

～あの日、あの時～

越河の名所・旧跡を伝えたい 越河保育園に「こすごう今昔・方言かるた」を贈呈

3月18日、ケアハウスやまぶきを訪れた越河保育園の園児たちに、入居者と職員たち手作りの「こすごう今昔・方言かるた」が贈呈されました。

越河出身の入居者である山田濱さんが、「越河に関するかるたを作って子どもたちにあげたい」と、話をすることがきっかけで始まったかるた作り。山田さんが文章を考え、施設の職員たちで43枚の絵札を仕上げました。

かるたには「線路越え 階段登れば おすわさま」「ようようござりした お客様 ゆるりとない」など、越河にある名所や方言などが上手に描かれています。

かるたを受け取った園児たちは、入居しているおじいちゃんやおばあちゃんと一緒に、みんな笑顔で楽しく遊びました。また、遊んだ後は、園児たちから施設の皆さ

んに、お礼の歌がプレゼントされました。



▲みんなで楽しくかるた取りをしました